

第8回全国高校生介護技術コンテスト 課題A (事前課題)

大分^{おおいだ}ヨリさん(86歳・女性)は、3年前に緑内障のため全盲となった。夫が日常生活の世話をしていたが、夫の介護疲れなどの理由により、半年前からショートステイを利用するようになった。ショートステイを利用し始めた頃は気落ちした様子が見られたが、最近、少しずつ気持ちが上を向き始めている。これからはいろいろなことを自分でできるようになりたいと話ようになった。今回は1週間の利用予定であるが、今日は敬老会が予定されているため遠方で暮らす長男家族の面会が予定されていて、心待ちにしている。

<p>健康状態 心身機能 身体状況</p>	<p>3年前、緑内障のため全盲となった。 聴力については、最近、個室のテレビの音量が大きくなり、隣室から不満の声が出るほどである。 認知症の症状は見られない。 下肢筋力の低下が見られる。</p>	
<p>活動</p>	<p>立位：下肢筋力が低下しているため、支えが必要である。 移動：介助や手すりを使えば歩行可能。長距離になると車椅子を使用する。 2週間前に転倒した後から歩行に対する不安がある。 聴力：耳元でゆっくりと低い声で話すと聞こえ、意思の疎通ができる。 移乗：ベッドや車椅子からの移乗は声かけと、手を添えることにより、自分で行うことができる。</p>	<p>食事：全盲のためクロックポジションにより料理の中身を説明し、お盆まで手を誘導すると自分で食べることができる。 排泄：手すりをつかんでもらい、便器の方向とトイレトペーパーの位置に手を添え説明すると自分で行うことができる。 入浴：週2回の一般浴。洗髪は介助であるが、身体はタオルに石鹸を付けて渡すと自分で洗える。 着脱：時間はかかるが一人でできる。寒いからと、肌着やセーターなどを何枚も重ね着している。</p>
<p>参加</p>	<p>他の利用者とのコミュニケーションはなく、目が見えないし聞こえないからと自分からは行事にはほとんど参加しない。</p>	
<p>個人因子</p>	<p>86歳、女性。4人兄弟の二女として出生。実家の農家を手伝っていた。23歳の時に結婚し、2人の男子をもうけ、夫と農業を営んでいた。 転倒による不安と恐怖心はあるが、今後も在宅での生活を希望しており、自分でできることは自分でしたいと思っている。</p>	
<p>環境因子</p>	<p>夫は大分さんの世話をしたいという希望があり、大分さんも自宅での生活を望んでいたためしばらく自宅でもともに生活していた。しかし夫も高齢化し、介護の疲れもあり、ショートステイを利用するようになった。息子が来ると大分さんがとても喜ぶので、なるべく長男も面会の機会を設けようとしている。</p>	
<p>使用可能な物品 ※すべてを使用する必要はない。</p>	<p>ベッド(楽匠Z 3モーション KQ-7331) キャスター付き マットレス(ストレッチスリムマットレス KE-771TQ) ベッドサイドレール(ベッドサイドレール KS-161Q2本組) ベッドサイドテーブル(ベッドサイドテーブル KF-1920) 車いす(日進医療器 自走・標準型 NEO-1) 床頭台(上衣(前開き)、バスタオル、フェイスタオルが入っている) シーツ/枕/タオルケット/靴</p>	